平成１６年度認定（No.38）

農業名人

（カーネーション名人）

堺澤（さかいざわ）　豊（ゆたか）

昭和24年生まれ

駒ヶ根市赤穂南割在住

栽培は、肥培管理と温度管理に尽きる

高校の2年先輩の岡野小一郎さんが、カーネーションは、150坪（約５ａ）で水田以上の年収があがると言った。これはすごいことだと思い、迷わずカーネーション栽培を目指し小諸の県農業専門学園（現県農業技術大学校）へ進んだ。実習先は、岡谷の小松裕人さんで、昭和29年からカーネーションにとりくんでおられた。卒業後、昭和43年に南信ハウスカーネーション組合に入り生産を開始した。現在、その組合の組合長をしている。

今、ハウス20棟、2400坪（約80a）で90万から百万本を周年出荷している。出荷は関西、関東方面が主で、国内の産地では、春から夏長野、夏の北海道、冬の愛知・静岡等といった棲み分けができていたが、今日最大のライバルは中国で、年々輸入量が増えている。平成16年は、前年比180％の伸びで、2億本弱のカーネーションが輸入され、競争が激化している。

栽培技術は、肥培管理と温度管理の２点に尽きる。そこが、農家の技量となる。この品種をこのスタイルに仕上げてみたいと挑戦する。しかしそれがなかなかできないから、面白みがある。取り組んだ結果を外部評価してもらう意味で、積極的に品評会に出品し、賞も頂いた。本年度は（Ｈ１６）浜名湖花博にて開催された全国花卉品評会において農林水産大臣賞を受賞した。

これからの経営方針は、ジャストインタイムである。自分の数字を見てムダは省き経営改善し、その時にすべき投資は躊躇することなく行う。出荷も午前中に、生花市場の値動きを見ながら品種ごとに市場を決めている。

季節ごとに好まれる色が変化するし、色の好みには地域性もある。

作った人の顔の見える花の販売をめざして、インターネット上の販売や、市場外流通に取り組んでいる。母の日に「花狩り」として農園開放もおこなった。

上伊那の花をＰＲする為にも、生産者がまとまり新しい行動を起こすことができればと考えている。